

曾根地域環境を守る会によるバケツ稲交流会が 仙台市立荒町小学校で開催されました！

平成28年10月28日、仙台市立荒町小学校において同校の5年生72名を対象に、栗原管内の多面的機能支払活動組織「曾根地域環境を守る会」による今年度3回目のバケツ稲交流会が開催されました。曾根地域環境を守る会では、平成22年度からこの農業体験交流を継続して行っています。（今年度は10月5日に稲刈り体験も予定していましたが、あいにく台風接近のため中止となりました。）

今回はこれまでの活動のまとめとして、稲の精米体験を行いました。児童のみなさんは、種もみの芽出しから稲刈りまでの工程を学習した後、稲の脱穀・もみすり・精米の手順や道具の使い方について説明を受け、4～5名のグループに分かれて米作りの最終段階を疑似体験しました。慣れない作業に最初はとまどいながらも、しだいに教室は楽しそうな声であられ、精米体験の終了時間ぎりぎりまで真剣に取り組んでいました。作業中は、曾根地域環境を守る会のみなさんが各グループにアドバイスをして回るなど、児童のみなさんとの交流を深めていました。

曾根地域環境を守る会会長の狩野さんは、「バケツ稲がどうなったか気がかりだったが、立派に生長した姿を見ることができて安心した。今後田んぼを見るときには、みなさんの食べているご飯ができるまでを気かけながら見てほしい。荒町小学校とは、今後も交流を続けていきたい。」と、今年度最後のバケツ稲交流会をしめくくりました。



お米ができるまでのお話



精米道具の使い方



まずは割り箸で脱穀！



ボールでもみすり



精米作業、あと一息！



★精米体験後にお時間をいただき、農業と農村のもついろいろなはたらき（農業・農村の多面的機能）について、当事務所からお話をさせていただきました。今後も関係機関との連携をとりながら、地域の活性化を目指す組織の活動を支援していきます。



説明の際に配布した資料。
農業・農村のはたらきについて、
分かりやすくまとまっています。

（北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部管理調整班）